

心停止サーファー救命

田 鉦

鹿行広域消防本部 感謝状を贈呈

鉦田市大竹の大竹海岸で、サーフィン中に心肺停止した男性の命を救ったと、医、遠藤聡さん(45)と大竹サーフライフセービングクラブに24日、鹿行広域事務組合消防本部(消



感謝状を贈られた大竹サーフライフセービングクラブの上原絢子さんと芹沢祐介さん、医師の遠藤聡さん(前列右から) 鉦田市安房

防長事務取扱・岸田一夫鉦田市長)から感謝状が贈られた。

同日、鉦田市安房の同本部で贈呈式があり、救命措置に携わった遠藤さんと同クラブ所属のつくば市、会社員、芹沢祐介さん(33)、千葉県酒々井町、公務員、上原絢子さん(33)の3人が出席した。

同本部や3人によると、11月13日、同海岸沖合でサーフィンをしていた東京都杉並区の男性(54)がサーフボード上にうつぶせて浮いているのを、男性の家族と友人が発見し、砂浜まで引き上げた。

サーフィンのため同海岸を訪れていた遠藤さんと、ライフセービングの講習会で現場近くのクラブハウス

にいた芹沢さんや上原さんが騒ぎに気付き、3人で協力して心臓マッサージや人工呼吸を行った。同クラブのほかのメンバーも通報や医療道具の準備など後方支援に当たった。

男性は救急車が到着する前に心拍と自発呼吸が戻り、遠藤さんは車内で救急隊員らと酸素投与などを続けて状態を安定させ、ドクターヘリに引き継いだ。男性はその後、順調に回復しているという。

岸田市長は「皆さんの迅速で適切な措置で尊い命が救われた」とたたえた。遠藤さんは「病院外での救命措置は初めてだったが、協力してやるべきことを全てできた」と振り返った。芹沢さんは「最悪のケースに

至らず安心した。今回の件をメンバーと共有して今後の活動に生かしたい」、上原さんは「まずは事故を防ぎたかった。これからも事故の防止に貢献したいという思いが強まった」と話した。

(藤崎徹)